

会長就任のあいさつ

高橋真吾（たかはし しんご）
早稲田大学

このたび、2025年度から2026年度にかけて、一般社団法人経営情報学会の会長を拝命いたしました。大変光栄であるとともに、その責任の重さに身の引き締まる思いであります。

本学会は1992年に、社会科学系の旧経営情報学会と工学系の旧日本経営情報学会が統合されて発足しました。以来、歴代会長の皆様の卓越したご指導と会員の皆様のご尽力により、経営情報学の学術的発展と社会への貢献の両面で着実な歩みを進めてまいりました。

現代は、デジタル技術の急速な進展とともに、情報が社会の隅々まで影響を及ぼす「新情報時代」とも言える時代に突入しています。このような変化の激しい環境において、経営と情報をつなぐ学際的な知見の重要性はこれまで以上に高まっています。

本学会は、協働システムとしての組織が直面する諸課題に対して、情報システムを経営戦略の中核的要素としてとらえ、その戦略的活用に関する知見の創出と実践を通じて、学術と社会に貢献しより良い未来の創造を目指します。現在、生成AIや高度なデータ分析技術の普及、リモートワーク・ハイブリッドワークといった働き方の変容、組織構造や意思決定プロセスの再編が進む中、経営と情報に関する課題はかつてないほど複雑化・多様化しています。さらに、情報システムが社会的価値や倫理、サステナビリティと交差する場面も増え、経営情報学には学術的にも実践的にもより広範なアプローチが求められています。

こうした時代背景のもと、2025年度から2026年度の学会活動においては、以下の基本方針を掲げ、学術と実務の接続点での対話と協働を推進してまいります。

1. 経営情報学の再定義と未来志向の探究

経営情報学の本質を見つめ直し、今後の研究領域、方法論、実践の方向性について、学会として中長期的な展望を提示します。新情報時代における経営情報学の社会的役割と使命を再確認し、その輪郭



を明確にしていきます。これに関連して、特設研究部会「経営情報学の再定義：新情報時代に向けて」を設置いたしました。随時会員の皆様とともに議論していききたいと思います。

2. 分野横断的な対話と知の統合

研究者と実務家の対話を促進し、技術・経営・社会の接点における議論を深めます。多様な知が交差する学会として、社会との接点を拡張し、新たな価値の創出を目指します。

3. 会員の主体的な参画と学会運営の強化

本学会は、会員一人ひとりの知的貢献と主体的な参画によって支えられています。世代や立場を超えて、互いに学び合い、支え合うことで、持続的な価値創造と会員の皆様のエンゲージメントの向上を実現します。

本学会は技術・社会・組織をつなぐ学際的な領域での課題の解決や持続可能な未来の構築に寄与する役割を担っており、近年その成果は学会員のみならず、企業・自治体・教育機関など多様な分野の方々にもますます関心を持たれるようになってきました。学会の知見が広く社会に認知されることで、現代の新情報時代において本学会がさらに発展し、未来社会に対して一層の貢献ができると信じております。会員の皆様とともに学会をよりよいものにしていきたい所存です。会員の皆様には今後ともご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。